

乳児の自立座位を促す保育内容の検討

カルマール良子¹・三須朋子²・神原里奈²

(¹美作大学短期大学部・²社会福祉法人常石会 幼保連携型認定こども園 常石すくすくハウス)

背景と目的

本研究の目的は、乳児の座位姿勢の獲得過程を検討することである。座位姿勢の獲得は、育ちの状況を確認するうえで重要な指標とされている。座位は、寝返りやずり這い、四つ這いなどの目的志向的な運動とは異なり、大人による姿勢援助が必要な「受動的」な姿勢であると同時に、乳児自身による匍匐姿勢から座位姿勢への「能動的」な運動としても捉えられる。発達とは、子どもが能動性を発揮して環境と関わり合う中で、生活に必要な能力や態度などを獲得していく過程として捉えられていることから（内閣府 2017）、乳児の能動性に基づいた座位獲得の過程を促す保育内容を検討する意義があると考えられる。以上から、乳児が日常生活や遊びを通じて、自ら体を動かす環境について実践を通して検討し、自立座位を獲得するための保育内容について理解することを目指す。

方法

乳児の自発的な運動発達を促すために、Emmi Pikler(1968, 1972)の実践報告を参考にした。担当制保育を努め、乳児が自分で座位姿勢をとることができるようになるまで、保育者が食事や着替え、遊びの時間などにおいて、乳児を座らせることを控える保育条件を採用した。

①2022年9月～2024年6月(計10回):0歳児保育研修:認定こども園の保育者らと共に、0歳児クラスの保育内容に関する研修を行った。担当制保育のもと、乳児の機嫌が良い時には、床面で仰向けやうつ伏せ姿勢で遊ぶ環境を整えた。乳児が匍匐姿勢から自発的に座位や立位を獲得できるように、生活や遊びの内容について検討し、個人差に応じて玩具や遊具、保育者の援助方法を工夫した。

②2022年9月～2024年6月(計4名):事例検討:担当保育者が4名の乳児に対して、①の保育内容を実践し、その縦断的観察事例を写真やビデオで記録し、考察した。保護者には事前に調査の趣旨や内容について説明した文章を提供し口頭でも説明した。使用する写真や記録内容について随時確認し同意を得た。

結果と考察

表1 主要な運動発達段階への到達月齢

(数値は月齢)

| | 寝返り | ずり這い | 四つ這い 姿勢保持 | 自立座位 | 四つ這い 前進 | つかまり 立ち | 伝い歩き | 独立歩行 |
|----|-----|------|--------------|------|------------|------------|------|------|
| A児 | 4 | 6 | 6 | 7 | 8 | 7 | 7 | 12 |
| B児 | 5 | 6 | 8 | 8 | 9 | 9 | 10 | 13 |
| C児 | 5 | 7 | 9 | 8 | 9 | 10 | 11 | 13 |
| D児 | 3 | 9 | 11 | 11 | 観察中 | 13 | 観察中 | 観察中 |

保育者が乳児の受動的な座位姿勢に対する援助を控え、床面で仰向けやうつ伏せ姿勢での能動的な活動ができる人的および物的環境を整えた結果、対象児は共通して全身の多様な動きを自由に経験しながら、寝返りやずり這いを経て自立座位と四つ這いを獲得することが確認された。（表1・全身の多様な動きについては、ポスター発表にて紹介予定）一般的な運動発達尺度には、本研究で確認された自立座位の獲得過程は記載されていないが、今回の調査では、乳児が寝返りやずり這いを獲得後、自分で体幹を持ち上げて座するという自立座位の獲得過程が共通して確認された。今後は対象者数を増やし、自立座位を乳児の能動的な一連の運動発達過程として位置づけ、さらに検討を深めていく。

保育所保育指針（厚生労働省 2017）や母子健康手帳（子ども家庭庁 2024）に記載されている運動発達過程は、座位姿勢を獲得した後、はいはいを獲得する順序となっているが、本研究では、ずり這いで移動運動を獲得した後、座位姿勢を獲得したことが示された。この相違は、乳児が自立座位を獲得する前に保育者の援助や育児用品の助けを借りて座位姿勢をとったのか、それとも本研究のように乳児自身が新しい姿勢や動作を試みながら、徐々に座位姿勢を獲得したのかを判断できると考えられる。

引用文献

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館

Pikler,E. (1968) Some contributions to the study of the gross motor development of children, J Genet Psychol, 113, 27-39

Pikler,E. (1972) Data on gross motor development of the infant, Early Child Dev Care, 1, 297-310

厚生労働省（2017）『保育所保育指針』フレーベル館

子ども家庭庁（2024）『母子健康手帳』<https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/techou/>（最終閲覧：2024/07/07）